

2021年12月理事会議事録

日 時：2021年12月25日（土）14：00～17：25

場 所：オンライン会議・日本考古学協会事務所

出席：辻 秀人・佐古和枝・佐藤宏之・足立佳代・植田 真・大塚昌彦・岡林孝作・亀田直美・河村好光・小菅将夫・惟村忠志・滝沢 誠・田尻義了・谷口 榮・時枝務・中嶋郁夫・中山誠二・萩野谷 悟・馬淵和雄・溝口孝司・宮里 修・高麗正、監事：都築恵美子・橋本裕行、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

欠 席：白杵 勲・寺崎秀一郎

進 行：宮里 修

議 長：辻 秀人

宮里理事から、本日の出席者は24名（うち理事22名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

中嶋理事から、奈良県の藤田義成会員が7月30日、東京都の西田親史会員が8月22日、大阪府の宇田川誠一会員が9月14日、神奈川県の高尾宣方会員が9月26日、宮城県の楠本政助会員が10月6日、千葉県の岡田茂弘会員が10月23日、愛知県の松井孝宗会員が11月4日、福島県の西間木 薫会員が11月16日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第657号 退会会員の承認について

中嶋理事から、岩手県の*会員、宮城県の*会員・*会員、福島県の*会員、群馬県の*会員、埼玉県の*会員・*会員、千葉県の*会員、長野県の*会員、大阪府の*会員、奈良県の*会員、徳島県の*会員、高知県の*会員、熊本県の*会員から2021年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

続けて、2021年9月理事会議案第650号で2021年度での退会を承認された鹿児島県の*会員から、2022年度分会費を支払済みのため2021年度退会ではなく、2022年度退会とした旨の申し出があるとの説明があり、2021年度退会を取り消し、2022年度退会とすることで承認された。

議案第658号 「(仮) 考古学カフェ」の実施について

佐古副会長から、アウトリーチ活動の一環として、一般を対象に、考古学の最新情報や注目の研究テーマ等について研究者が話題提供し、参加者と意見交換を行う「(仮) 考古学カフェ」の実施提案があった。コロナ禍により当面はオンラインで2ヶ月に一度偶数月に実施予定とする。申込みは各回ごとに協会ホームページ掲載の申込みフォームから行うこととし、ポスターやチラシを作成して、都道府県や博物館、考古学専攻のある大学及び高校生ポスターセッション申込高校に配布するとの説明があった。協議の結果、企画名については「カフェde考古学」とすることで、実施について承認された。

議案第659号 名誉会員候補の選定方法等について

佐古副会長から、名誉会員の選考方法として、「名誉会員に関する内規」第1条第4項の「これに準ずる功績」の運用について、役員歴に応じて点数に換算して名誉会員の資格を決定し、各年の選考に諮ることとする申し合わせ事項(案)を作成したとの説明があり、原案通り承認された。

報告第849号 協会規則の一部改正(第6章・理事選挙関連)の報告確認について

高麗常務理事から、メール審議で行った2021年11月臨時理事会で承認された「日本考古学協会規則」第6章の理事選挙に関する条文の改正について、審議の経過と結果の報告と最終的な修正条文の提示があり、了承された。

報告第850号 奈良大学訪問と協会図書に関わる打合せ報告

辻会長から、12月2日(木)に佐古副会長・高麗事務局長と奈良大学を訪問し、図書館における協会図書の現況の確認や協会の利用方法について意見交換を行い、利用の利便性を図るために相互のホームページにバナー画像を掲載することを再確認したとの報告があり、了承された。続けて植田理事から、協会図書のPDF等デジタルデータ化について進捗状況の確認があり、今後の課題とすることとなった。

報告第851号 名簿データの収集状況の中間報告及び以後の対応について

辻会長から、当初の締切までの回答数が少なかったことから、名簿作成用紙・名簿データ未提出の会員に対し、改めて名簿作成のための情報提供の依頼を行ったところ、最終的に約2,600名から回答を得られたとの報告があった。これをもって、回答のあった会員の情報を掲載した名簿を作成する予定であるとの説明があり、了承された。

報告第852号 第12回日本考古学協会賞の応募状況と今後の予定

佐藤副会長から、第12回日本考古学協会賞は期日までに11件の応募があったことが報告された。今後は、機関誌『日本考古学』編集委員会及び英文機関誌編集委員会からの推薦を受けたものも含めて、3月13日(日)に選考委員会を開催して各賞の受賞候補作を選考する予定であるとの説明があり、了承された。

報告第853号 協会規定の見直しと冊子掲載について

佐藤副会長から、2021年10月理事会「その他」で相談した会員名簿に掲載する規定の選定を行うワーキンググループについて、改めて①ワーキンググループは諸規定の内容確認及び整合性を調整・検討することを目的とし、当面は会員名簿に掲載する規定を選定する、②メンバーは佐藤副会長、萩野谷理事、中山理事及び高麗常務理事とし、確認事項が生じた場合は他の担当理事等、法的課題は弁護士等に照会する、③任期は2年とし、恒常的な業務の発生が予想された場合は小委員会として再度組織するとの説明があり、了承された。

報告第854号 2021年度日本考古学協会賛助会員学習会の企画について

滝沢理事から、フレンドシップ会員・学生会員を対象とした今年度の賛助会員学習会については、2022年1月25日（火）に、上侍塚古墳発掘調査及び周辺遺跡・施設の見学を計画しているとの説明があり、了承された。

報告第855号 2021年度新入会員第1回入会資格審査委員会報告

中嶋理事から、12月11日（土）に第1回入会資格審査委員会を開催し、委員長に白井久美子会員、副委員長に日沖剛史会員が選出され、2022年度新入正会員の資格審査、及び賛助会員の予備審査を行った。①正会員については、審査の結果、申込総数43名のうち、資格基準を満たす者39名、保留4名と判断された。保留4名については、2022年1月15日（土）に、委員長と副委員長及び担当理事による第2回入会資格審査委員会を開催する予定である。②賛助会員については、フレンドシップ会員1名、学生会員3名の申込総数4名であり、委員会では特段の意見はなかったとの報告があり、賛助会員については1月理事会で改めて議案として入会を諮ることで、了承された。

報告第856号 第88回（2022年度）総会準備進捗状況について

田尻理事から、12月19日（日）にオンラインで企画担当理事と第88回総会実行委員会との打合せを行い、総会及び研究発表会の開催方法等について協議したとの報告があった。①定時総会は第87回総会と同様に、会場参加とオンライン参加（聴講のみ）のハイブリッド形式で行う。②研究発表についてはオンライン開催とし、そのうち口頭発表・セッションは発表者が原則早稲田大学に来場・発表するライブ配信で実施、ポスターセッション・高校生ポスターセッションはオンライン上にポスターを掲示し、コアタイムではオンライン上で発表や意見交換ができるようにする予定である。③オンライン開催のサポートとして、今回も実行委員会と企画担当理事、及びITに詳しい会員からなるワーキンググループの設置を検討しているとの説明があり、了承された。

報告第857号 各委員会等における2021年度会議等報告について（その5）

1 アーカイブス小委員会の報告

谷口理事から、12月5日（日）に小委員会を対面で開催し、①電磁的媒体データのデジタル変換について、3.5インチ2HD・2DDやMOの内容確認を行い状態の分別を行った。②定期刊行物のデジタル化に伴うスキャニング業務委託について、複数社に見積り合わせを行っているところである。③会員カードのデジタルデータ化については、作業前に収納・整理する準備を進めている。④2022年度に実施する事業について協議したとの報告があり、了承された。

2 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

足立理事から、11月14日（日）及び12月18日（土）に幹事会をオンラインで開催し、①港区高輪築堤跡について、協会主催のシンポジウムを一般市民を対象に開催することを計画している。②近現代遺跡のセッションを第88回（2022年度）総会で実施することとし発表者・内容を検討した。③広島市広島城跡（サッカースタジアム建設予定地）の被爆遺構について、中国連絡会が広島市と面談を行ったことが報告され、今後の対応を協議した。

④出雲市大社基地跡について、地元の団体と連絡を取りながら引き続き注視していく。⑤徳島市徳島城跡、及び安芸市瓜尻遺跡について、要望書提出の検討をそれぞれ進めている。⑥横浜市稲荷前古墳群隣接地について、開発が行われてしまったことから、情報提供者との意見交換を行うとともに横浜市と懇談の場を設ける予定である。⑦埋文委委員への実態調査アンケートの実施について協議したとの報告があり、了承された。なお、高輪築堤跡のシンポジウムについては、来年早々の開催が予定されていることから、早めの実施計画内容の提示が求められた。

3 2022年理事選挙管理委員会の報告

大塚理事から、11月6日（土）に第1回選挙管理委員会を開催し、①委員長に大工原豊会員、副委員長に志村哲会員が選出され、今後の選挙日程の確認を行った。②選挙告示について内容を協議し、i)「日本考古学協会規則」の「理事選挙」に関する箇所の改定に伴い修正を行った。ii)選挙公報を会報に合わせてA4判とすることから新レイアウト案を検討し、またこれまで第2回委員会で実施してきた選挙公報の確認作業事務の軽減のため、選挙公報原稿はデータ形式で郵送による提出とする。③立候補・候補者推薦のチラシ、及び投票呼びかけの広報チラシを作成することとし、デザイン案を検討した。④開票作業の迅速化を図る観点から、開票作業の方法についてこれまでと一部変更し、また内封筒は廃止する。⑤選挙公報の掲載順番について協議した。⑥立候補・推薦を促すことを目的に、協会ホームページに候補者の人数を随時掲載する予定であるとの報告があり、了承された。

4 機関誌『日本考古学』編集委員会の報告

大塚理事から、11月7日（日）に編集委員会をオンラインで開催し、①第54号の掲載予定原稿の状況の確認、②書評希望書籍についての検討、③査読依頼の際の手続きについての協議を行った。また、『日本考古学』の原稿状況について、掲載予定原稿が少ないことが報告され、各理事に投稿及び投稿案内等の協力が求められた。機関誌の投稿数の対応策等については、会長・両副会長及び担当理事で意見交換の機会を設けることとなった。

5 陵墓の報告

岡林理事から、①緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が解除となったことを受け、延期となっていた宮内庁との陵墓懇談を10月26日（火）に行い、15学協会16名が参加した。②事前調査見学が大山古墳（仁徳天皇百舌鳥耳原中陵）で実施され、16学協会41名が参加し、当会からは岡林理事・滝沢理事・日高慎会員が参加した。なお、大山古墳の事前調査見学は2018年度に次ぐ2回目である。終了後は堺市博物館で事後検討会を行った。③立会調査見学が12月17日（金）に渋谷向山古墳（景行天皇山邊道上陵）で実施され、11学協会15名が参加し、当会からは岡林理事が参加したとの報告があり、了承された。

6 研究環境検討委員会の報告

亀田理事から、11月6日（土）に委員会をオンラインで開催し、①2021年度金沢大会でオンライン上に提示したポスターのアンケートの回答を受けて、意見交換を行った。②これまでの検討をまとめ、第88回（2022年度）総会のポスターセッションで後継者育成に関

する提言を行うこととし、内容を協議した。③「(仮) 考古学カフェ」で研究環境検討委員会の担当回の実施内容を検討したとの報告があり、了承された。

7 広報委員会の報告

谷口理事から、協会ホームページでは、金沢大会の図書交換会中止に伴い「考古学スクエア・秋」を行っており、12月末まで掲載情報を募集、2022年3月末まで掲載予定であるとの説明があり、了承された。

8 社会科・歴史教科書等検討委員会の報告

小菅理事から、12月12日（日）に委員会をオンラインで開催し、①会長・両副会長と、委員会代表3名が面談を行い、旧石器時代の教科書掲載について文部科学省へのアプローチ等が求められたことが報告された。②第88回（2022年度）総会におけるポスターセッションの内容を協議した。③日本文教出版株式会社に鈎持委員長及び松本委員が訪問し、懇談内容を情報共有した。④協会ホームページ「考古学と教育」に掲載する「授業で使える遺跡・博物館」のリンク集を作成した。⑤2022年度実施事業について検討したとの報告があり、了承された。

報告第858号 武蔵国分寺被災瓦等の修復報告書受理と協会仏教遺跡調査特別委員会の発掘資料について

高麗常務理事から、国分寺市が所蔵している、協会仏教遺跡調査特別委員会が調査した協会所有の被災資料の修復事業についての報告があり、寄託あるいは権利放棄等の書類を交わした方が良いとの意見が出された。

報告第859号 事業等に関わる後援名義使用の承認について

高麗常務理事から、①高輪築堤の全面保存を求める会から12月18日（土）開催の講演会「日本最古の鉄道遺構—高輪築堤の全面保存をもとめて—」について、②芸備地方史研究会から12月19日（日）開催のシンポジウム「サカスタ予定地の地下に眠る広島城跡を考える」について、③日本西アジア考古学会から2022年3月12日（土）開催の第29回西アジア発掘調査報告会「令和3年度 考古学が語る古代オリエント」について、それぞれ名義後援の依頼があり、名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

報告第860号(1) 会員制度について

馬淵理事から、現在、会員制度としては個人会員のみであるが、夫婦や家族等の会員制度の可能性について今後の検討提案があり、組織担当を中心に諸外国の学会も含めて制度や運用等の調査を行うこととなった。

その他

1 高輪築堤に関するイコモス・ヘリテージ・アラートについて

日本イコモス国内委員会の理事でもある溝口理事から、イコモスでは高輪築堤に関わるヘリテージ・アラートの発出を検討中であるとの説明があった。

2 『年報』73の刊行と同74の進捗状況について

河村理事から、『年報』73は11月30日付で刊行したとの報告があり、次号『年報』74については執筆者一覧が提示され、執筆依頼状況の説明があった。

以 上